

【金沢大学附属特別支援学校】「情報」の活用能力学習系統表（内容の例示）（試案）

別表 2

令和8年8月31日時点

学部段階		小学部①		小学部②		中学部		高等部①		高等部②			
統合的な理解・総合的な発揮 （概念の深い理解・複雑な課題の解決）		ICT活用を、生活科の本質的意義をより深化させ、体験・認識・表現の質を高めるための補助・促進する手段と位置付ける。				【情・統合的な理解】情報技術の正負の側面を含む特性の理解をもとに、情報技術を適切かつ効果的に活用することで、デジタル社会における様々な課題を解決できることを理解する。 【情・総合的な発揮】情報技術の正負の側面を踏まえ、情報技術を情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などに適切かつ効果的に活用して、デジタル社会における身近な課題を解決できる。							
・内容 ・情報活用能力の構成要素		知識及び技能		思考力、判断力、表現力等		知識及び技能		思考力、判断力、表現力等		知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	
・情報技術を活用して学びや生活を豊かにし、自立や社会参加につなげる力		・興味や関心のあることを見付け、情報を集めたり伝えたりする。		・必要な情報を集め、整理しながら相手に伝える。		・情報を活用して課題を解決し、自分の考えを表現する。		目的に応じて情報技術を選択し、課題解決に活用する。		・情報技術やAIを活用しながら多面的に課題を捉え、社会参加や自己実現につなげる。			
情報技術の活用	課題の設定 （気付く・伝える→選択する→設定する→興味・関心に結びつけて設定する→社会や生活に結び付けて設定する）	・身近なヒト・モノ・出来事等に触れることを通して、知りたいことや不思議だと思ふ・感じることを。 ・自分の好きなことや興味のあることを表す方法を知ること。	・身近なものや出来事の中から、興味をもったことや気になったことを見付けること。 ・興味をもったことや気になったことを、言葉や写真、絵、身振り等で伝えること。	・調べたいことや知りたいことを決める学習があることを知ること。	・示された課題から自分の課題（興味・関心事）を選択すること。	・課題の設定、情報の収集、情報の整理・分析、まとめ・表現からなる問題解決的な学習の過程を知ること。	・示された複数の課題をもとに、自分の課題を設定すること。	・課題設定の方法や、問題解決的な学習の過程の役割を理解すること。	・示された課題をもとに、自らの興味や関心を反映させた課題を設定すること。	・課題の設定と学習計画との関係を理解すること。	・身近な生活や社会の課題を見出し、解決可能な課題を設定すること。 ・課題解決に向けた学習計画を立てること。		
	情報の収集 （観察する→調べる→選ぶ→判断する→検証する）	・写真や動画の撮影、音声の録音などを通して情報を記録すること。 ・記録した写真や動画等を見返して情報を確かめること。	・拡大したり視点を変えたりして対象を観察すること。 ・興味をもったことについて、見たり聞いたり触れたりして情報を集めること。	・文字や絵、音声、画像など様々な方法で情報を記録すること。 ・本や図鑑などから情報を得る方法を知ること。	・五感を働かせたり、本や身近な人へのインタビューを活用したりして情報を集めること。 ・目的に応じて写真や動画を撮影し、必要な情報を集めること。	・誤った情報が含まれることがあることや、複数の情報源から情報を集める大切さを知ること。 ・情報の種類や特徴に応じた収集方法があることを知ること。	・図書・インターネット・インタビュー等から目的に応じて情報を収集すること。	・複数の情報源を用いて情報の信頼性を確かめる必要があることを理解すること。 ・情報収集におけるプライバシー、肖像権、データ管理等への配慮を理解すること。	・情報源の信頼性を判断しながら情報を収集すること。 ・目的に応じて情報収集の方法を選択・組み合わせること。	・一次情報と二次情報の違いを理解すること。 ・AIによって収集した情報は人による確認が必要であることを理解すること。	・複数の情報源から計画的に情報を収集し、その信頼性を検証すること。 ・自ら収集した情報と生成AIによる結果を比較し、多面的・多角的に情報を捉えること。		
	整理・分析 （比べる・分ける→整理する→比較・分類する→要約・推論する→関連付ける）	・絵や写真、物を並べるなどして情報を整理する方法を知ること。	・集めた情報を比べたり分けたりすること。	・表や図を用いて情報を整理する方法を知ること。	・整理の仕方や観点が示された状況で、情報を図や表に整理し比較すること。 ・表や画像、動画から必要な情報を読み取ること。	・情報の整理の仕方を理解し活用すること。 ・集計やグラフ化の方法を知ること。	・複数の情報を整理・比較し、自分の考えをもつこと。 ・表やグラフから傾向や特徴を読み取ること。	・情報の比較や分類の仕方を理解し活用すること。 ・情報を集計しグラフ等で表す方法を理解すること。	・条件に応じて情報を分類・要約・推論すること。 ・整理した情報から傾向や因果関係を見出すこと。	・情報と情報との関係付けの方法を理解し活用すること。 ・目的に応じた分析方法を理解すること。	・目的に応じて情報を整理・分析する計画を立てること。 ・複数の情報を関連付けて分析し、根拠をもって解釈すること。		
	まとめ・表現 （伝える→分かりやすく伝える→目的に応じて伝える→対話しながら伝える→根拠を示して議論する）	・絵、写真、音声、動画などを用いて伝えること。 ・伝えたいことを簡単に記録したり提示したりすること。	・自分が見付けたことや気付いたことを伝えること。 ・写真や絵などを示しながら相手に知らせること。	・絵や文章、写真などを用いて情報をまとめること。 ・資料を提示しながら発表する方法を知ること。	・伝えたい相手や状況に応じて、絵や文を使ってまとめること。 ・資料を見せながら、聞き手に伝わるように説明・発表すること。	・プレゼンテーションアプリを用いてスライドを作成すること。 ・動画作成アプリを用いて動画を作成すること。	・目的や相手に応じて表現方法を工夫すること。 ・絵や文章、写真、動画など複数のメディアを活用して情報を伝えること。	・プレゼンテーションアプリや動画作成アプリの様々な機能を活用すること。 ・聞き手の理解を深めるための対話の方法を理解すること。	・発表の目的や聞き手に応じて適切な表現方法を選択すること。 ・レイアウトやデザイン等を工夫し、効果的に情報を構成すること。 ・相手からの質問や意見を受けて、自分の考えを見直したり深めたりすること。	・プレゼンテーションや議論の方法を理解すること。 ・デジタルツールの機能を効果的に活用して情報を表現すること。	・メディアの特性を踏まえ、目的や相手に応じて表現方法を選択すること。 ・事実と解釈を区別しながら、自分の考えや判断の根拠を明確に表現すること。		
	基本的な操作	・アプリや端末を使うこと。 ・写真や動画を撮影・視聴し、活動を記録すること。 ・コミュニケーションの手段としてICTを使うこと。 ・文字や絵、図形を入力・作成すること。			・端末の起動やログイン等の基本的な操作をすること。 ・ドラッグ＆ドロップ等の基本的な操作をすること。 ・手書き入力、キーボード入力、音声入力等で情報を入力すること。 ・オンラインツールを使うこと。 ・共同編集や情報共有を体験すること。			・オンラインツールやクラウドの基本的な使い方を理解し活用すること。 ・情報を共有し、共同編集するための基本的な操作をすること。 ・オンライン上で他者とコミュニケーションを取りながら活動すること。 ・画面構成や設定の意味を理解すること。			・フォルダやファイルを適切に管理すること。 ・ファイルの共有範囲を設定すること。 ・文字入力や編集を効率的に行うこと。 ・動画や画像を編集すること。 ・クラウドサービスを活用すること。		
読書・図書の活用	・いろいろな絵本や図鑑などに興味をもつこと。			・図書を用いた調べ方を理解し使うこと。			・本にはいろいろな種類があることを知ること。			・読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。			
・他者を尊重し、安全かつ責任をもって情報を利用する力		・約束を守って安全に利用する。		・自分や他者の情報を大切に扱う。		・情報モラルやルールを理解し、責任をもって利用する。		・法律や権利を踏まえ、適切な情報活用について考える。		・情報社会の一員として責任ある行動と発信を行う。			
情報技術の適切な取り扱い	法や制度【権利・ルール】 （約束→ルール→権利→法律→AI・SNS社会）	・学校や家庭でICTを使うときの約束があることを知ること。	・ICTを使うときの約束を守って行動すること。 ・人が嫌な気持ちにならない使い方について考えること。	・情報を扱うときにはルールがあることを知ること。 ・人が作った作品や情報には大切に扱う必要があることを知ること。	・使い方のルールを考え、人の情報の扱い方を確かめること。 ・人の作品を大切に扱うことの意味について考えること。	・情報に関する権利やネットワーク上のルールを理解すること。 ・情報には著作権や個人情報など保護されるものがあることを理解すること。	・ネットワーク上での行動が他者に与える影響を考えること。 ・引用や出典を確かめながら、情報を適切に扱うこと。	・著作権、肖像権、個人情報保護などの法や制度について理解すること。 ・情報を適切に取り扱うための法律やルールの存在を理解すること。	・著作権や肖像権を踏まえた情報活用について考えること。 ・個人情報の保護や安全な情報発信の方法について考えること。 ・AI利用に伴う著作権や利用上の課題について考えること。	・SNS利用に関わる法律上・社会上の問題について理解すること。 ・AIと著作権、知的財産との関係について理解すること。	・情報社会の一員として責任ある情報発信について考えること。 ・著作権や知的財産を尊重したAI活用の在り方について考えること。		
	倫理【他者尊重・責任】 ・「多様な立場を尊重する」 ・「差別や偏見を助長しない」 （物を大切に→作品を大切に→権利を尊重する）	・物や情報を大切に扱うことを知ること。 ・自分や友達作品には大切にすべき価値があることを知ること。	・物や情報を丁寧に扱うこと。 ・他者の作品や考えを大切にしようとすること。	・他者の成果物や考えを大切にすることの意味を知ること。 ・情報を扱う際には相手への配慮が必要であることを知ること。	・他者の立場を考えて情報を扱うこと。 ・情報や作品を大切に理由について考えること。	・自他の権利があることを理解すること。 ・情報を適切に扱うためのルールやマナーがあることを理解すること。	・情報を大切に扱う理由やルールについて考えること。 ・情報発信や情報共有が他者に与える影響について考えること。	・知的財産権等の個人の権利について理解すること。 ・情報社会における責任や義務について理解すること。	・著作権や肖像権などを踏まえた行動について考えること。 ・個人情報の保護や適切な情報発信について考え、自らの行動を見直すこと。 ・AI利用に伴う倫理的な課題について考えること。	・情報発信が他者や社会に与える影響について理解すること。 ・AIやデジタル技術の利用に伴う倫理的課題について理解すること。	・情報社会の一員として責任ある行動や情報発信について考えること。 ・出典の明記やデータの安全性、差別や偏見への配慮を踏まえて情報を発信すること。 ・創作者や利用者など多様な立場を踏まえて、AI活用の在り方について考えること。		
	安全【自分と情報を守る】 （安全に使う→自分を守る→危険に気付き判断する→安全対策を実践する→リスクを予測して行動する）	・ICT機器を安全に使うこと。 ・使った後は片付けたり充電したりすること。 ・ICT利用には休憩が必要であることを知ること。	・使用時間や使い方を振り返りながら利用すること。 ・安全に利用するための約束を守ろうとすること。	・IDやパスワードの大切さを知り、自分の情報を大切に扱うこと。 ・ICT機器の使用時間と健康との関係を知ること。	・使用時間と健康との関係について考え、適切な利用計画を立てること。 ・安全な利用のためのルールや約束について考えること。	・IDやパスワードの管理方法やオンライン上の基本的なルールを理解すること。 ・ネットワーク上には誤情報や偽情報があることを知り、健康への影響について理解すること。	・インターネットの安全な利用方法や相談の仕方について考えること。 ・偽サイトや不確かな情報を見分ける方法について考えること。	・SNS、コンピュータウイルス、情報セキュリティの仕組みや危険性を理解すること。 ・情報漏えいや不正利用を防ぐための方法を理解すること。	・情報発信のリスクやプライバシー保護について考えること。 ・情報セキュリティ対策や健康的なICT利用について考え、自ら実践すること。	・情報の信頼性を確かめる方法や、サイバー犯罪への対処方法を理解すること。 ・情報サービスのアルゴリズムや個人情報管理の仕組みを理解すること。	・情報の真偽やリスクを判断しながら、安全に情報を活用すること。 ・インターネット利用や情報発信の在り方を振り返り、自分に合った安全な利用方法を考えること。		

学部段階		小学部①		小学部②		中学部		高等部①		高等部②											
統合的な理解・総合的な発揮 (概念の深い理解・複雑な課題の解決)		ICT活用を、生活科の本質的意義をより深化させ、体験・認識・表現の質を高めるための補助・促進する手段と位置付ける。				【情・統合的な理解】情報技術の正負の側面を含む特性の理解をもとに、情報技術を適切かつ効果的に活用することで、デジタル社会における様々な課題を解決できることを理解する。 【情・総合的な発揮】情報技術の正負の側面を踏まえ、情報技術を情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などに適切かつ効果的に活用して、デジタル社会における身近な課題を解決できる。															
・内容 ・情報活用能力の構成要素		知識及び技能		思考力、判断力、表現力等		知識及び技能		思考力、判断力、表現力等		知識及び技能		思考力、判断力、表現力等									
・情報技術やAIの特徴を理解し、目的に応じて活用する力		・情報機器や情報の便利さに気付く。		・身近な情報機器やコンピュータの仕組みに関心をもつ。		・情報技術やデジタルデータの特徴を理解する。		・ネットワークやプログラム、AIの仕組みを理解する。		・情報技術の社会的役割や影響を理解し、その活用を考える。											
情報技術の特性の理解	情報及びコンピュータの原理	・情報機器を使うと写真や音、文字などの情報を見ることができることを知ること。 ・情報機器を使って得た情報と実際の様子を比べること。 ・情報はすぐに伝えたり受け取ったりできることを知ること。		・写真や動画、音声などの違いに気付く、それぞれを比べること。 ・情報機器を使って得た情報と実際の様子を比べること。		・コンピュータの簡単な仕組みや各部の名称を知ること。 ・身近な情報機器の特徴や役割を知ること。 ・情報機器ごとの特徴を比べ、目的に応じて使い分けること。 ・情報機器による表現や伝達の違いに気付くこと。		・インターネットやクラウドの基本的な仕組みを理解すること。 ・画像や音声などのデジタル情報は加工できることを理解すること。 ・情報がどのように共有・保存されるかを考えること。 ・デジタル情報の特性を踏まえて情報の扱い方を考えること。		情報通信ネットワークの構成と情報のやり取りの仕組みを理解すること。 身近な機器に使われているセンサーの種類や働きを理解すること。		・身近な情報機器がどのように情報を集めて活用しているかを考えること。 ・センサーやネットワークが生活や社会に果たす役割を考えること。		・コンピュータにおける入力・処理・出力の仕組みを理解すること。 ・データ処理や情報システムの基本的な仕組みを理解すること。 ・身近な機器を例に、入力・処理・出力の流れを整理して説明すること。 ・情報技術の仕組みと社会への活用との関係を考えること。							
	AI (知る・使う→理解する・工夫する→検証・判断する) ※学習対象・支援ツールの2側面							・生成AIを活用して情報を得たり、表現したりできることを知ること。 ・AIが大量のデータを学習して動いており、誤った結果を示す場合があることを知ること。 ・AIが学習や生活を支援する技術として活用されていることを知ること。		・生成AIを活用して情報の収集や表現を行うこと。 ・AIが示した結果を確かめながら活用すること。		・生成AIの基本的な仕組みや特徴を理解すること。 ・AIは入力内容によって結果が変化することを理解すること。 ・AIが読み上げ、要約、翻訳、音声入力等の支援技術として活用できることを理解すること。		・AIへの指示の仕方を工夫し、目的に応じた情報や支援を得ること。 ・AIの結果に誤りが含まれる場合があることを踏まえ、その妥当性を確かめること。		・AIの活用には著作権、バイアス、情報の不正確さなどの課題があることを理解すること。 ・AIの長所と限界を理解し、適切に活用するための留意点を理解すること。 ・AIが自立した生活や社会参加を支援する技術として活用されていることを理解すること。		・AIの特長を生かしながら課題解決に活用し、その結果を批判的に検討すること。 ・AIの結果と自ら収集・分析した情報を比較し、多面的・多角的に考察すること。 ・自分に必要な支援を考え、適切なAIやデジタルツールを選択して活用すること。			
	アルゴリズム・プログラミング (手順を考える→反復処理を使う→問題解決を設計する→条件分岐や最適化を活用する)					・身の回りにはコンピュータによって動いているものがあることに気付くこと。 ・簡単な順次処理のプログラミングを行うこと。		・身の回りにはコンピュータによって制御されているものが多く存在することを理解すること。 ・プログラムの動作を確かめながら修正すること。 ・プログラミングソフト等を用いて、反復処理を含む簡単なプログラムを作成すること。		・フローチャートを用いて処理の流れを表すこと。 ・自動制御やロボットには情報技術と物理的な技術が組み合わされていることを理解すること。		・問題解決の手順を整理し、プログラムとして表現すること。 ・作成したプログラムを評価し、よりよいものとなるよう改善すること。		・条件分岐や複数の条件を用いたプログラムの作成方法を理解すること。 ・コンピュータによる検索や並べ替えの仕組みを理解すること。		・課題に応じて処理の流れを設計し、条件分岐を含むプログラムを作成すること。 ・手作業とコンピュータによる処理を比較し、効率や正確性の違いを考察すること。					
	デザイン (絵・色で伝える→わかりやすく伝える→スライド・グラフで伝える→相手に合わせてデザインする→多様な人やAIとの協働を踏まえてデザインする)	・絵や写真、色などを使って伝える方法があることを知ること。 ・伝えたいことを紙や掲示物に表すこと。		・絵や写真、色を選びながら伝えたいことを表現すること。 ・見る人に伝わりやすいように配置や大きさを工夫すること。		・ポスターや掲示物には伝わりやすくなるための工夫があることを知ること。 ・文字や絵、写真を組み合わせて表現すること。		・相手に伝えたい内容に応じて、文字や絵の使い方を工夫すること。 ・伝わりやすさを考えながらポスターや掲示物を作成すること。		・スライドやグラフには、情報を分かりやすく伝えるための表現方法があることを知ること。 ・配色や文字の大きさ、レイアウトによって伝わり方が変わることを知ること。		・目的や相手に応じて、見やすく分かりやすい表現を工夫すること。 ・グラフやスライドを活用し、伝えたい内容を整理して表現すること。		・情報デザインの基本的な考え方（配色・レイアウト・視覚誘導等）を理解すること。 ・デザインや画像編集を活用して、情報を効果的に伝えること。		・相手や目的に応じて適切なデザインを選択すること。 ・デザインや画像編集を活用して、情報を効果的に伝えること。		・デザインによって情報の受け取られ方が変化することを理解すること。 ・AIを活用したデザインや創作の特徴と留意点を理解すること。		・多様な人に効果的に伝わるよう、色、文字、音声、図記号等を活用して情報を表現すること。 ・AIの利点や課題を踏まえ、人とAIが協働した情報表現の在り方について考えること。	
	データの扱い (保存できる→整理して保存できる→保存・共有・検索の理解・活用→適切な管理→構造の理解・課題解決での活用)	・写真や動画、音声などのデータを保存できることを知ること。 ・保存したデータを見返したり利用したりできることを知ること。		・必要な写真や動画を選んで見返すこと。 ・活動の記録を振り返りながら活用すること。		・データは保存したり取り出したりできることを知ること。 ・作成したデータを整理しながら保管することを知ること。		・保存したデータを見つけて活用すること。 ・目的に応じてデータを整理すること。		・様々なデジタルデータの特徴やクラウドの利用方法を理解すること。 ・ファイルの保存、整理、検索、共有の基本的な方法を理解すること。		・目的に応じてデータを整理・保存・共有すること。 ・表やグラフを活用してデータの特徴を捉えること。		・デジタルデータの複製、編集、加工の方法や特性を理解すること。 ・ファイル形式や保存方法による違いを理解し、適切に管理すること。		・目的に応じてデータを収集・整理し活用すること。 ・データの種類や形式を踏まえて適切な管理方法を選択すること。		・データの構造化や共有方法について理解すること。 ・データの活用や分析が社会で利用されていることを理解すること。		・目的に応じて複数のデータを組み合わせることを理解すること。 ・データの特徴や傾向を分析し、課題解決に活用すること。	
	コミュニケーションやメディア 【情報の伝わり方や受け取り方】 (伝える→伝え方を選ぶ→伝わり方を理解する→メディアの特徴を理解する→メディアの影響を批判的に捉える)	・絵、写真、音声、動画など、様々な方法で気持ちや情報を伝えられることを知ること。 ・相手に伝わりやすいように絵や写真、言葉などを選んで伝えること。 ・相手の話や発信を見たり聞いたりして内容を受け取ること。 ・情報を伝えたり受け取ったりするための様々な手段があることを知ること。		・相手に伝わるように絵や写真、言葉などを選んで伝えること。 ・相手の話や発信を見たり聞いたりして内容を受け取ること。		・文字、写真、音声、動画などによって伝わり方が異なることを知ること。 ・コミュニケーションの手段には様々な方法があることを知ること。		・相手や場面に伝えて伝え方を工夫すること。 ・複数のメディアを比較し、それぞれの特徴に気付くこと。		・情報の加工によって伝わり方が変わることを知ること。 ・インターネットやSNSの特徴を知り、複数の情報を比較することの大切さを理解すること。		・情報の伝わり方の違いを比較し、適切な伝達方法を考えること。 ・SNSやインターネットの特徴を踏まえて情報を受け取ること。		・報道メディアとSNSの特徴や違いを理解すること。 ・メディアごとに情報の伝わり方や影響力が異なることを理解すること。		・情報の信頼性やメディアの特徴を踏まえて活用方法を考えること。 ・文字・画像・動画・音声などの表現の違いが受け手に与える影響について考えること。		・メディアによって情報の伝わり方や受け取り方が異なることを理解すること。 ・エコーチェンバーやフィルターバブルの仕組みを理解すること。 ・情報の受け取り方には個人の経験や価値観による偏りが生じることを理解すること。		・画像、動画、音声等の複数の表現手段を組み合わせて情報を表現し、情報の構成と伝わり方との関係について考えること。 ・フィルターバブルやエコーチェンバーが生じる仕組みを踏まえ、自分の経験や身近な集団での出来事と関連付けながら、情報の受け取り方や判断の偏りについて考えること。 ・複数の視点や立場から情報を捉え、多面的に考察すること。	
	社会的役割 (生活で使われていることに気付く→便利さと課題を理解する→社会での役割を考える→未来の活用を構想する)					・情報技術が生活の中で使われていることを知ること。		・身近な情報技術が自分たちの生活にどのように役立っているかを考えること。		・情報技術には生活を便利にする面と注意が必要な面があることを理解すること。		・情報技術の特性による便利さと危険性を整理し、その仕組みが生活に与える影響について考えること。		・情報技術が社会のさまざまな場面で活用されていることを理解すること。		・身近な情報技術の事例をもとに社会での働きを考え、情報社会における情報技術の役割について考えること。		・情報技術が社会や産業、生活の在り方に影響を与えていることを理解すること。		・未来の社会での情報技術の役割や影響を考え、自分や社会にとってよりよい活用のあり方を考え、表現すること。	